

2022, 9, 12

文責:山香 昭

学校訪問シリーズ3

臼杵市立南中学校から学ぶ

昨年度の学校の教育目標「『かかわる』『わかる』『つたえる』南中生の育成」に、今年度は『チャレンジする』を加え、新たなことに勇気をもって粘り強く挑戦し、体験を自信につなげることが出来る力を育成することを目指す南中。

生徒が主体的に行う活動となるために、地域と共に30年継続して行っている炭焼き活動を、探究課題を重視した教科横断的な計画と再編成し、また、各行事や授業等においても生徒と教職員でテーマや目標を共有することで、共に取り組むような活動へと発展しています。

学校経営から学ぶ

昨年度の学校関係者評価で課題のあった項目については、工夫をしながら実践を行っています。例えば、ICTの活用については、校内のICT担当者が研修内容を企画・運営して実際に職員研修を行い、その研修の様子を授業力向上アドバイザー（外部講師）が参観し助言をするというもので、研修を通して校内のリーダーを育てるような内容でした。

また、やらされる活動（学習）から主体的に行う活動（学習）への脱却を目指すために、生徒自らが『やる気スイッチ』が入る授業の在り方について話し合い提案したそうです。教職員は、生徒が望んでいる授業を知ることで自身の授業改善に役立てることができ、生徒達も責任感や当事者意識をもって授業に参加することが期待されます。

また、教職員の研究チームを「総合学習」「学びの場」「授業改善」「ICTの活用」

の4チームに分け、全体研修やチーム別研修を行っています。さらに、各チームには生徒の代表を配置し、教職員と生徒達で共に考えています。このようなことから、教職員だけでなく生徒自身が学校の教育目標を常に意識し行動することで、協働的な実践や改善が行われることが期待されます。

授業から学ぶ

1年生家庭科は、教師の丁寧な板書から、自らの課題の解決の方策を知ることができていました。

3年生理科は、教師が実際に行った実験の様子をもとに、根拠をもって自分の考えをまとめていました。

2年生音楽は、班で話し合った内容を、デジタル教科書を使いながら音楽の用語を用いて説明する姿が見事でした。

今後は、「振り返り」において、生徒にはどのような内容を書いて欲しいか、どんな姿になったら良いのか等、教師が願う具体的なゴールの姿を、生徒の言葉で表現することで、「ねらい」との連動や評価規準がより明確になると思われました。



NO.101 2022年9月 臼杵市立南中学校

わかる・伝える

実験からわかったことは同じでも、伝え方は一人一人違う。根拠をもとに自分らしく表現しよう。



NO.102 2022年9月 臼杵市立南中学校

チャレンジする

熱心に聴いてくれる仲間がいるから、自分達の思いを伝えることができる。挑戦できる。



NO.100 2022年9月 臼杵市立南中学校

かかわる

自分らしい作品をつくりたい。だから、先生から基礎を学び、友達と助け合うんだ。